

# 2023年度 自己評価報告書

評価対象期間 自：2023年4月1日

至：2024年3月31日

評価基準日 2024年4月1日

学校法人栗岡学園

奈良リハビリテーション専門学校

# 1 教 育

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	当校の教育目標である「向上心をもって取り組む」、「感受性を養う」点に関して、学内での教科や行事、臨床実習を通じて人間性豊かな人材を育成できるよう取り組んでいる。 コロナ感染対策を前提とした取り組みが徐々に見直されている中で、学生教育に不足がないようにしている。	座学や実技演習、臨床実習等を併用することで、多角的な視点を養えるよう各教員がそれぞれ対応している。また学生の特性に応じた個人対応も適宜行っており、多様化する学生の状況に応じたきめ細かい指導を行っている。 今後新たな指定規則改正が進められる予定であるが、不足なく水準が保てるように準備しておく必要がある。	5 4 3 2 1 + ④ ふ 不 ← つ → + 分 う 分	医療人に必要となる基礎的態度や豊かな社会性を育む為に、教育目標に沿ったカリキュラムを予定通り展開することが必要である。 次年度よりコロナ感染症にかかる各種対応が解消され従来の形を取り戻すことになる。合わせて指定規則の変更に備える必要もあり、カリキュラムマップやカリキュラムポリシーの充実を図っていく。	
2. カリキュラムに卒後の職場のニーズをどのように反映していますか	指定規則に準拠した教育内容をしっかりと反映させることはもちろん、教授内容が日本理学療法士協会定めるモデルコアカリキュラムにも準拠する内容になるよう整備している。また、本校の特徴として実施しているロボティクスリハ教育については実績が積み上げられており、学生の理解が進みやすいように工夫されている。	学習に必要なロボット関連備品が十分に整備されており、授業時のみならず、学生が希望すればいつでも使用することができる環境を整えている。 一方でロボティクスリハの教育モデルをブラッシュアップすることは課題となっている。	5 4 3 2 1 + ⑤ ふ 不 ← つ → + 分 う 分	本校の特徴ある教育内容については関係各所の理解も深まっており、特に関連施設における臨床実習では現場でのロボティクスリハの実践を学べるように整備を進めているところである。また HAL を用いた教育については先日講師資格研修を修了させたので、次年度は教育内容をブラッシュアップさせることができると考えている。	

<p>3. 授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか</p>	<p>学内授業においてはカリキュラムに従って予定通り進行している 臨床実習においてもコロナ感染に係る不測対応は減少しており、概ね予定通り進行出来ている。</p>	<p>カリキュラム通りに進行しており年次ごとに段階を踏んで学習が進んでいることは良い点である。一方、臨床現場ではいまだ感染症拡大に伴う臨床実習内容の制限を受けることもあるため、学習内容に不足偏りが生じないよう配慮しているところである。</p>	<p>5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分</p>	<p>今年度より国家試験出題基準が変更され、また来年度より指定規則改正に向けた調整が進む予定である。これまでと同様に、量質ともに高度な卒前教育が求められることから、3年制教育という本校の特色を上手く活かした効率的で効果的な学びの仕組みが実践できるように引き続きカリキュラムを見直していく必要がある。また、臨床実習においては次年度より学内演習対応がとれなくなるため、臨床実習内で時間と経験を満たせるように調整する必要がある。</p>	
<p>4. シラバス（授業要項）を作成していますか（内容は適切ですか）</p>	<p>授業シラバスは教員により適切に管理されており、各期開講時には学生に提示することで学習目標が明確になるように工夫されている。</p>	<p>シラバスは専任の教員が管理しており、内容の確認更新が適切に運用されている。 なお、スケジュールに変更があった場合は担当講師より適宜説明しており、学習計画に支障がないよう配慮している。</p>	<p>5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分</p>	<p>科目間での教育内容の重複や抜け落ちがないかの検討を引き続き行う必要がある。またカリキュラム内容のブラッシュアップを図るなかで、シラバス内容で適切になるよう精査を続ける。</p>	

<p>5. カリキュラムの見直し体制はどのようにしていますか</p>	<p>カリキュラムの見直しは、学校指定規則及び日本理学療法士協会が定めるモデルコアカリキュラムに準拠して学科長、主任主導のもと教務会議で検討し、運営会議にて学校長の承認を得て、理事会に諮る体制をとっている。 なお、カリキュラムの内容妥当性については外部評価を利用して見直すように努めている。</p>	<p>カリキュラム内容が指定規則に準拠するように整備することはもちろん、日本理学療法士協会が定めるモデルコアカリキュラムにも準拠するように努めている。 一方、カリキュラムに臨床のニーズが反映されているかについては引き続き検討が必要である。</p>	<p style="text-align: center;"> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">5</span> 4 3 2 1  十 分 ← つ → 十 分  分 う 分 </p>	<p>カリキュラム上の課題については学内で検討することを基本としており、これにより特徴ある教育の展開が可能となっている。一方で、その妥当性については学校外部からの客観的視点が重要である。現在実施している学校関係者評価や第三者評価で頂くご指摘を謙虚に受け入れることはもちろん、臨床実習指導者や外部講師からの声を積極的に受け入れ、カリキュラムの妥当性を引き続き検証していくことが必要である。</p>	
<p>6. テキストや教材をどのような基準で採用していますか</p>	<p>基本的な採用基準は「臨床で活用できる」また「国家試験等に利用可能」であり、学内外で有効活用できる教材を検討して採用している。外部講師にもこのことはご理解いただき、学生負担となる不必要な教材購入がないように努めている。</p>	<p>学生アンケートや講義の実情に即して、使用図書を厳選し、より良いものを選定できるように努力している。ICT教育設備が安定的に運用できるようになり、iPadを利用した視聴覚学習や小テストの実施と即時フィードバックなどを実践している。</p>	<p style="text-align: center;"> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">5</span> 4 3 2 1  十 分 ← つ → 十 分  分 う 分 </p>	<p>学生アンケートを通じて、科目ごとの教科書採用についての意見を確認している。一部改善の要望もみられるため、担当講師と相談のうえ、改善に努める必要がある。</p>	

<p>7. 目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか</p>	<p>科目ごとの教育内容と教育目標及びそれらをふまえた成績評価方法を明示したシラバスを学生に配布しており、これに従って学科試験を実施し評価判定している。 臨床実習においても実習ごとに明示された到達目標に基づいて実習前後の学習評価を行い、最終的な成績を判定する。</p>	<p>基本的な成績評価は科目の特徴に沿って設定した基準で行っている。 特に臨床実習では実習前の診断的評価と実習中の形成的評価が適切に行われており、実習後の総括的評価にできるだけ客観性が与えられるように工夫されている。</p>	<p style="text-align: center;"> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">5</span> 4 3 2 1  十 分 ← つ → 十 分  分 う 分 </p>	<p>科目ごとに定められた教育目標の達成が適切に測れるような妥当な評価方法の選択が重要である。その方法の妥当性については各講師が最良の評価方法を検討し、また外部評価や学生アンケートなども利用して内省し続ける必要がある。 今後は指定規則の変更改正やモデルコアカリキュラムの変更改正などにより、臨床実習の技術水準や形成的評価項目の設定などが明示化されることが考えられる。</p>	
<p>8. 学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか</p>	<p>科目ごとに学生の理解が深まるような教授方法を講師が選択し実践している。 授業終講時には科目アンケートを実施しており、教授方法や内容についてのフィードバックがされているので、翌年度はそれを踏まえた授業を実践している。</p>	<p>科目によっては授業中の小テストや中間テスト、理解を深めるような視聴覚教材の提供など行っており、学生からは好評である。 授業に際して学生間で理解度に偏りが生じた場合には、全体的に理解度が上がるように再度説明するなどの工夫を行っている。 一方で、これをやり過ぎると授業進捗に遅れが生じるため、その場合はある程</p>	<p style="text-align: center;"> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">5</span> 4 3 2 1  十 分 ← つ → 十 分  分 う 分 </p>	<p>理解度は学生ごとに異なるので、個人ごとに課題を設定して、補助資料や補習を行うことが効果的と考える。 特に学習が滞っている学生については補習などを行っている。 学生ごとに異なる課題をしっかりととらえることが重要で、弱点克服はもとより、強みを伸ばす工夫も必要である。</p>	

		度で再説明を切り上げて放課後等の時間で復習を含めた再説明を行っている。						
9. 学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか	入学前より就学前教育を実施することで学力の底上げを図るとともに、放課後等の自学時間を最大限活用しながら個別対応を積極的に実施している。	今年度より導入した外部業者の入学前課題や担任による学習意欲向上に向けたミーティングにより新入生全員の意欲が向上した。 学力に不安を感じる学生については補習などの時間外指導により対応したが、完全に解消するに至らないケースもあったため今後の課題である。	5 十 分	4 ← う	3 つ う	2 → 分	1 不 十 分	今年度より始めた新しい入学前教育及び入学後の早期ミーティングは一定の成果を上げることができたと考える。 今後も学力不足の学生を早期からサポートし、その学生の状態に応じた指導が実践できるように努める。
10. マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか	科目内での教授や学内生活、ビジネスマナー講座等を通じて、医療従事者としてふさわしい立ち振る舞いがとれるよう、学内外において教職員が指導を実施している。また感染症予防対策におけるマナーも併せて指導している。	必要に応じて適宜指導を続けているが、学生自身の倫理観に基づく部分も多分にあり、強制力を持たせにくいと感じることがある。	5 十 分	4 ← う	3 つ う	2 → 分	1 不 十 分	厳格に設定した基準に基づいて指導を進める一方、各学生個人がもつパーソナリティや生活環境等を含めた総合的なアプローチができるように努力する必要がある。
11. 教育技術（教育方法）の研修・研究を実施していますか	教員が各個人で学会や研修会を通じて研究発表や自己研鑽を続けている。また認定理学療法士は学校教育分野が2名、スポ	各教員がそれぞれの専門性を高めるために研修や研究を実践している。一方、学校組織としてのFDの実践は不十分であり、	5 十 分	4 ← う	3 つ う	2 → 分	1 不 十 分	教育技術の向上は教員の自己研鑽が基本であるが、教員のFDが促進される環境づくりを組織として推進する必要がある。

	一ツ理学療法分野が1名在籍しており、より良い教育を提供できるよう努力している。	今後更なる充実が必要である。																								
12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか	各講義終了後には授業アンケートを実施し、担当教員へのフィードバックを行うとともに次回への検討材料としている。また最終学年終了時には学校生活全般へのアンケートを実施し、学校運営に役立てている。	講義アンケートにより、各科目におけるフィードバックが得られるようにしている。また科目によっては講師独自で学生評価を実施しており、自身の教授内容に反映できるように取り組んでいる。	5 十 分	<table style="border: none; text-align: center;"> <tr> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>+</td> <td>○</td> <td>+</td> <td>+</td> <td>+</td> </tr> <tr> <td></td> <td>←</td> <td>つ</td> <td>→</td> <td>+</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>う</td> <td></td> <td>分</td> </tr> </table>	5	4	3	2	1	+	○	+	+	+		←	つ	→	+			う		分	アンケート内容を講義内容に反映できるようにする必要があり、またそれは学生のニーズを正確に反映させることが重要である。外部評価等を利用して客観的にみて修正が必要なものであれば、積極的に取り組んでいく必要があると考える。	
5	4	3	2	1																						
+	○	+	+	+																						
	←	つ	→	+																						
		う		分																						

## 2 施設・設備

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. 教室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	学生人数に対して教室や治療実習室、機能回復訓練室など適正な教室数を確保している。また治療用ベッド等、学内講義に於いて必要な物品を整理、利用できるよう適宜調整している。	学内設備については適切に保全されており、学生からもきれいに管理されているとのコメントをもらうことが多いが、中には老朽化しているものもでてきている。	<p style="text-align: center;">5 4 3 2 1 十 十 十 十 十 ← つ → 分 う 分</p>	各教室内における附帯設備については、今後も適宜必要な物品の補充及び改修を進めていく。	
2. 図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか(有効に活用されていますか)	図書室に於いては必要な図書を随時追加しております。また雑誌類についても毎年度ごとに検討をしながら学内教育に耐え得る体制を提供できている。また学生の要望に応じた活用ができるようにしている。	例年と同じく蔵書数として図書は充分量であり活用できる環境を整えている。雑誌は近年オンライン化が進んでおり、導入については検討していかなくてはならない。学生が希望する新規書籍については適宜購入できるように努めている。	<p style="text-align: center;">5 4 3 2 1 十 十 十 十 十 ← つ → 分 う 分</p>	学生の教育に有益な図書に関しては、必要に応じて追加できるように継続して管理していく。学習に効果的な図書については、定期的に教員や講師からの情報を収集して、学生に提示できるよう検討していく。	
3. 実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	各種教室の数や広さ、また付帯設備について指定規則に準拠したものが整備されている。	指定規則に定められた必要な物品が揃えられている。特にリハビリロボットやICT教育に関する付帯設備は非常に充実しており、他校では見られない本校独自の特徴となっている。	<p style="text-align: center;">5 4 3 2 1 十 十 十 十 十 ← つ → 分 う 分</p>	教室設備と同様、学内備品の管理状態を確認し、必要に応じて修繕や新規導入を継続的に実施していく。	

<p>4. 最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか(有効に活用していますか)</p>	<p>電子黒板や iPad、Wi-Fi 環境を整備して Apple TV を利用した学習環境整備などがなされており、学習が促進される仕組みづくりに努めている。</p>	<p>ICT 教育が実践できるハードが整備されており、ソフト面では google workspace for education を導入している。学生に配布している iPad は学内 Wi-Fi を自由に利用することができるので、自学中のみならず授業中も講師の指示のもと学習の促進に利用されている。</p>	<p style="text-align: center;"> <input checked="" type="radio"/> 5   4   3   2   1      十    ふ    不           ← つ → 十      分    う    分   </p>	<p>ICT 教育の環境づくりに関しては今後もアップデートを重ねていく。 専任教員を中心に積極的に学内講義に導入し、より学習効果を高められるように取り組んでいく。</p>	
<p>5. ニーズに応じた学生寮を保有していますか(有効に活用されていますか)</p>	<p>法人で学生寮を保有しているが、遠方からの入学者は本校に近い一般のワンルームマンションを選ぶ傾向にある。</p>	<p>法人にて所有する学生寮は、現段階で姉妹校の希望者が広く利用している。本校学生は物理的な距離があるため利用されないのが実情である。</p>	<p style="text-align: center;"> <input checked="" type="radio"/> 5   4   3   2   1      十    ふ    不           ← つ → 十      分    う    分   </p>	<p>学生が快適で安心安全に学生生活を送れるように、今後も学校として近隣の業者とも連携をとり、賃貸マンション情報等の収集に努める。</p>	
<p>6. 体育館や運動場などを保有していますか(有効に活用されていますか)</p>	<p>学内に体育館は保有しないが、近隣にグラウンドを保有している。体育の授業では関連校の体育館を利用している。</p>	<p>グラウンドについては使用頻度が低いが、地域貢献の一環として地元のイベントやスポーツ活動に有効に利用されており、地域貢献の一環としての側面もある。</p>	<p style="text-align: center;"> <input checked="" type="radio"/> 5   4   3   2   1      十    ふ    不           ← つ → 十      分    う    分   </p>	<p>体育館は授業等で適切に利用されているものの、昨今の酷暑により安全面を考え、違った方法での活用も考えていかねばならない。</p>	

### 3 学生サービス

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. クラス担任制をとり修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	原則2名によるクラス担任制をとり、学生の状態に応じて臨機応変に対応している。問題が生じた場合は他教員や、保護者も含めた包括的な対応が行えるようにしている。	原則的に各学年を担当する教員による対応をベースとするが、対応が難しいケースにおいては、教員間で情報共有をしつつ、より適切な対応が取れるように努力している。 一方、問題を抱える学生についてはその内容に多様性が増しており、個別に丁寧な対応が必要となっている。	5 十 分 ← 4 3 2 1 つ → 十 う 分	学生対応における基本的な働きかけは、教員による人間力に依る要素も大きい。しかしながら自らの経験則だけに頼らない俯瞰的な判断が出来るよう、情報共有を欠かさず、一定のルールづくりを徹底していく。	
2. 学生に対してカウンセリング（心理相談）を行っていますか	専門的なものでなければその都度、担任を中心に対応している。 学生が希望すれば、学園専属の公認心理師によるカウンセリングを随時実施している。カウンセリングについて、学生が学内で受けることは可能である。	例年同様、学内では教職員が学生にとって相談しやすい配慮や環境作りを行っている。また、学園専属の公認心理師によるカウンセリングもプライバシーを遵守しながら実施しており、学生が希望すれば学内に限らず関連病院や関連学校で受けることができる。	5 十 分 ← 4 3 2 1 つ → 十 う 分	学生が有する心理的側面の問題は、年々多様化しており、その内容も複雑である。画一的な対応では困難なケースも多くなっており、また背景には家庭環境に大きく影響されていることも多いので、公認心理師による専門的な視点での介入も含めた総合的な支援システムを引き続き推進していく。	
3. 教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか	学内ラウンジが休憩スペースとして利用されている。ここは食事や学生同士の交流場所としても活	学生ラウンジは自習場所としても活用されているものの、十分な広さとは言えず、また占有して使用し	5 十 分 ← 4 3 2 1 つ → 十 う 分	学生にとって利用しやすい休憩スペースや学習環境の見直しに加えて学内における教室使用ルール	

	用されている。	たい者が多数いるため、本来の目的で使えないということがあった。		の遵守や理解を深めていくよう促す必要がある。	
4. 食事場所や売店などのスペースが設けられていますか	売店は設置されていない。 食事は主に学生ラウンジと教室を利用している。 ラウンジには冷蔵庫やレンジ、キッチン等があり、学生が適宜使用できるようにしている。	学内に食堂や売店はないが、近隣にも食事を購入できる施設（コンビニやスーパー）があり、恵まれた環境であると言える。	<p style="text-align: center;"> <input checked="" type="radio"/> 5   4   3   2   1        十            不                 ← つ → 十        分            う   分     </p>	学内の構造上、今後も売店などの設置は困難である。新型コロナの状況改善に伴い、食事スペースの座席数を増やすなどして、利用できるエリアを拡大していく。	
5. 学校独自に奨学金や特待生制度を行っていますか	留年生に対しては特別学費支援制度を導入しており、継続的な学習ができるような経済面でのサポートを実施している。 学校独自の奨学金は現状設けていない。	特別学費支援制度については今年度も該当者がほぼ利用し、継続的な学習ができる意欲を担保するのに一定の効果があったと考える。	<p style="text-align: center;"> <input checked="" type="radio"/> 5   4   3   2   1        十            不                 ← つ → 十        分            う   分     </p>	特別学費支援制度以外にも、今後は特待生制度等の成績優良者に対する支援制度も模索している。	
6. その他	学生の交通手段として適応範囲を限定した上で、車での通学を許可している。 また子育て支援として、関連施設であるこぐま園を利用できる。	育児をする必要がある学生に対して、勉学に集中できるよう、こぐま園への送迎の利便性を考慮して、車通学を許可している。	<p style="text-align: center;"> <input checked="" type="radio"/> 5   4   3   2   1        十            不                 ← つ → 十        分            う   分     </p>	学生の家庭環境の変化により勉学に臨むことが困難になる場合がある。そのような様々な状況が増えているが、それに対応するため適宜規則を柔軟に運用している。	

#### **4 教育面などでの特筆すべき取り組み(自由記入)**

- Google Workspace for education の運用により、教材の配信等が実用的となり、より効果的な学習支援が実践できている。
- ロボティクスリハ教育の充実が進められており、担当教員はその教育資格の取得を進めている。これは他校で見られない本校独自の特徴である。
- 様変わりする臨床実習の学習を支援するために、本校独自の思考過程整理ツールや実習管理システムを開発・運用している。

以上